

広報 だんち

2026
8月号

NO.535

(協)焼津水産加工
センター発行

焼津市惣右衛門1280番地の2

令和8年8月27日発行

編集・総務係

TEL・054-624-2111

FAX・054-623-3834

HP・<http://www.yaizufpc.or.jp>

8月団地の言葉

「熱中症 感じる前の水分補給
無理はダメ」

7月28日(火)、熊本県で最大震度7を記録する「令和8年熊本地震」が発生しました。その後も強い揺れが相次ぎ、交通インフラの寸断や建物の損壊など甚大な被害をもたらしました。熊本では10年前にも「熊本地震」で大きな被害を受けたばかりであり、災害は容赦なく、そしていつ襲ってくるか分からないという事実を痛感させられました。

さて、加工団地では9月11日(金)に防災訓練を実施する予定となっております。団地従業員の皆様にあつては他人事と捉えず「明日は我が身」という強い危機意識をもって臨んで頂きたいと考えております。近年は全国的に自治体の防災訓練への参加率が減少・低迷傾向にあります。コロナ禍を経て「密を避ける」と言う意識が定着したことや、幸いにも大きな災害に見舞われていないことによる緊張感の薄れなど、理由は様々かもしれませんが、ですが、防災の現場でよく言われるのは「訓練で出来ない事は本番でも出来ない」という事です。日頃からの備えや確認が出来てい

ければ、いざという時に自身や家族の身を守る行動は起こせません。一方で静岡県は全国でもトップクラスとなる60%以上の高い訓練参加率を誇っています。これは昔から南海トラフ地震の発生を想定し、防災意識を高め続けてきた成果だと思われれます。ただ、その中に目を向けると「参加者の大多数がシニア層であり、20代・30代の若者世代の参加率が極めて低い」という全国共通の課題があります。シニア層がメインの訓練では、どうしても限界が生じます。重い資機材の運搬や避難所の設営などの力仕事は大きな負担となり、結果として訓練内容を縮小して行う地域もあります。極端な場合では、地域の指定避難場所に集まって点呼を取るだけで解散するケースも見受けられます。実際の被災現場を想像してみてください。大規模災害が発生した際、高齢の自治会役員だけで避難所の設営や運営を担い、自分よりも若い住民のお世話まで行うような状況では、避難所生活が立ち行かなくなるのは明白です。普段、他地域で救助訓練や救護訓練のデモンストラクションやレクチャーを行う機会がありますが、どの会場を訪れても参加者はシニア層ばかりという印象を受けます。本来であれば、避難所運営や救助の「手助けをする側」として期待される若

い世代が訓練におらず、逆にサポートを必要とする世代が中心になって訓練を行っている現状には違和感しかありません。災害の規模が大きくなればなるほど、行政や消防などの「公助」が到着するまで、相応の時間を要します。その間、自身や地域の安全を繋ぐのは「自助」と、住民同士で助け合う「共助」しかありません。何も出来ずにただ救助を待つのか、少しでも自ら行動して助けを受け入れる準備を整えるのかで、その後の復旧や生活を単なる年中行事と捉えず、防災力を高める機会として積極的にご参加下さい。

今月のだんちの言葉は富士冷さんの作品です。

今月の紙面

p2 8月の定例役員会／61期生集合講習終了／実習生の送別会

p3 安全運転管理者講習／静岡県の献血推進大会で感謝状をいただきました／団地防

p4 カツオ情報／百味窓

9月の組合行事予定

9月14日(月)
定例役員会

9月の暦

9月21日(月)

敬老の日

9月22日(火)

国民の休日

9月23日(水)

秋分の日

◆8月の定例役員会◆

去る8月10日に、8月度定例役員会が開催されました。

1 「温故知新の会」開催について

当組合ほか市中の水産関連組合が構成員となっている（一社）焼津水産会にて、「温故知新の会」を開催するとして案内があり、各組合ごとに対象組合員への案内をする一方、現職の組合役員も参加対象となっていることについて確認した。この「温故知新の会」は、昨今益々厳しさをます当地水産加工業において、往年の業界関係者と各組合役員とが交流をなし、業界活性化と更なる発展を期して行うもので、平成20年から計4回行われている。

2 鯉節加工事業に関して

鯉節加工事業について、直近に行われた部門のコンサル会社；（株）共同の定例会議についての報告がなされ、前月の実績報告と翌月予定等についての確認がなされた。

2 連絡・報告事項

「人事採用関連（退職報告）」「役員賠償責任保険更改について」「給与規程変更（同一労働同一賃金ガイドライン改正対応）」についてほか3項目の連絡・報告事項について了承された。

◆61期生集合講習終了◆

7月29日に、61期生である実習生16名の集合講習終了式を執り行いました。

6月29日の入国から本日までの間、合計176時間以上にわたる講習を実施し、法的保護講習、消防署での防災・防火訓練、焼津警



署による交通指導、安全教育、社会見学、海の事情、ゴミの処理、税金の義務、祭りなど、多岐にわたる内容を学びました。日本語の習得と併せて、これから日本で生活するための基礎知識をしっかりと身に付けることができました。

今回の16名は、インドネシアからの受入れ第3期生にあたり、事前の日本語学習を強化しことで面接の時期が少し遅くなり、当初予定していた6月中旬よりも約半月遅れての入国となりました。

来日後の1か月の勉強では、自分の日本語理解度、漢字に対する自信を来日前に持つようになり、増えてきた会話の練習機会を通して、日本語の勉強が楽しみだと実習生達が話してくれました。

一か月の講習期間を通じ、監理団体職員からも「16名全員が明るく、日本語習得への意欲が高く、非常に真面目」という評価が多く寄せられました。

終了式では、実習生代表として（株）富士冷のH A I T U L H A W A 君が挨拶を行いました。その流暢かつ綺麗な発音の日本語に、出席された企業代表者の皆様からも高い評価をいただきました。

16名の今後の活躍について、受入れ企業ならびに監理団体ともに、大きな期待を寄せており、今後の成長を楽しみにしております。

◆実習生の送別会◆



7月24日、（株）仲吉のタイ人実習生 P A N Y A T H I P G R I D S A N A P O N G さんが、タイでの兵役義務に服するため、実習2年目で帰国いたしました。

本来は通算3年間の実習予定でしたが、兵役への籤引き抽選が決定されたため、やむを得ず実習生活を中断することとなりました。

P A N Y A T H I P さんは2年間、寡黙ながら誠実に働き、社長からも高く評価されていきました。帰国に際しては送別の焼肉会を設け、実習生全員とともに楽しい時間を過ごしました。食べ放題の焼肉を次々と焼くうちに油でコンロが燃え上がり、店長が「これが焼ける限界ですね」と笑いながら肉を厨房へ持って帰りフライパンでやつてくれたのです。

社長は20数年来、実習生と共に汗を流し、時には日本料理や焼肉をご馳走し、サーカスへ連れて行くなど、深い信頼関係を築いてきました。数十年前には、帰国した実習生の故郷を訪問した際、O B の実習生たちは社長のために新車を購入して案内役を務め、数十名が集まって大宴会を開きました。社長は満天の星を見ながら再会の喜びを感じ、その際、社長は何十年ぶりに涙を流すほど感激したといひます。

実習生の皆さんは、会社のさらなる発展を大いに期待し、楽しみにしております。

◆安全運転管理者講習◆

7月17日（金）安全運転管理者講習を受講してまいりました。講習では今年4月から施行された自転車の「交通反則通告制度」いわゆる「青キップ」について注意喚起がなされました。また、自転車のヘルメット着用は現状では努力義務とされておりますが、講師を務められた交通課長より着用率の低さについて不安視しているとの発言がありました。静岡県内の着用率は全国で42位と言う低さです。また、9月から施行される「生活道路における自動車の法定速度の引き下げ」についてもお話し下さいました。生活道路とはセンターラインなどが無い道路で、現行の法定速度60kmが30kmに引き下げられます。交通事故の何割かを占める生活道路での事故は「交差点や住宅から人や自転車が出てくるかも」と予測する「かもしれない運転」を徹底すれば殆どが防げるハズであると。狭い道路でスピードを出し、交差点ですら徐行せずに、あぐく事故を起こした車のドライブレコーダーの映像を視聴すれば「かもしれない運転」の重要さが理解出来ます。

午後には「アングーマネジメント研修」が行われました。感情に任せて危険な運転をすれば、取り返しのつかない結果を生じさせる事になります。事故の背景には①加齢、②体調、③怒り、④天候や道路状況といった要因があります。その1つである「怒り」の感情を適切にコントロールし、危険運転や事故防止に努めていきたいと思います。

◆静岡県献血推進大会で感謝状をいただきました◆



7月27日（月）にグラシシップで開催された「第62回献血運動推進全国大会」において、「厚生労働大臣感謝状」と記念品をいただきました。この感謝状は、10年以上にわたり献血推進に積極的に協力し、その実績が特に優秀で他の模範となる団体又は個人に贈られるものです。

毎年組合事務所前にて、静岡県赤十字社血液センターの移動採血車による献血を実施しており、これまでの皆様のご協力が今回の受賞につながりました。心より感謝いたします。今後も献血活動に協力していきますので、引き続きよろしく願います。

◆団地防災訓練のお知らせ◆

9月11日（金）団地防災訓練を実施します。前半は例年と同様に「大規模地震の発生から津波襲来」を想定し、避難ルートの確認と高所避難訓練を、後半は組合事務所1階会議室にて救護訓練を行う予定です。大規模災害時に公助を待つ間に怪我の応急処置程度は出来る様に備えて頂ければと思います。工場長連絡協議会の会員以外にも各社の救護係など出来るだけ大勢の方にご参加頂き、有事に対する備えとして知識を身に付けて下されば幸いです。

◆新入職員のご挨拶◆



環境資源部化成課

清水 航一

はじめまして、このたび6月16日より環境資源部化成課に配属されました、清水航一と申します。

前職では富士宮市で養殖の仕事に携わっていました。休日はアニメや漫画、ゲームを楽しみながらゆつくり過ごしています。新しい環境で学ぶことも多いですが、一日でも早くお役に立てるよう頑張ります。何卒よろしく願います。

◆献血のお知らせ◆

県赤十字血液センターの移動採血車による献血を左記の日程で予定しております。

日にち 9月16日（水）
時間 12時～13時
場所 組合事務所前駐車場

各企業の皆様ご協力をお願い申し上げます。



2026年（1月～6月計）の輸出入 ※輸出はFOB価格、輸入はCIF価格
※財務省貿易統計データを加工して作成



カツオ

<輸出>		2026年		2025年	
		数量 t	価額 (千円)	数量 t	価額 (千円)
タイ	イン	5,002	1,267,625	6,596	1,401,469
フィリピン		1,005	269,800	787	202,014
フランス		25	8,481	—	—
計		6,057	1,550,161	7,397	1,606,420

<輸入>		2026年		2025年	
		数量 t	価額 (千円)	数量 t	価額 (千円)
インドネシア		8,771	2,298,612	17,022	3,596,642
タイ		550	120,067	24	3,597
ブルネイ		208	52,120	210	46,947
計		9,899	2,560,598	18,496	3,873,130

FOB (Free on board)

買手の指定した本船に商品を積み込むまでの費用を売り手が負担する条件

CIF (cost, insurance and freight)

買主指定の輸入港までの運賃と保険料を付け加えた条件

※水産庁統計データ冷蔵水産物流通統計月末在庫を加工して作成

冷凍かつお月末在庫量	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2026年(単位:t)	23,177	20,120	19,320	16,751	11,796								91,164

§ 国内主要漁港市場の水揚げ (2026年1月～6月計) ※水産庁統計データ産地水産物流通統計を加工して作成

情報

	2026年			2025年		前年比%	
	数量 t	単価		数量 t	単価	数量	単価
<生カツオ>	16,733	438 円		7,634	621 円	219%	71%
<冷カツオ>	78,620	327 円		70,769	263 円	111%	124%
<カツオ合計>	95,353	346 円		78,403	298 円	122%	116%

§ 焼津水揚げ (2026年1月～7月計)

※焼津漁業協同組合統計データ取扱高対比表を加工して作成

	2026年			2025年		前年比%	
	数量 t	単価		数量 t	単価	数量	単価
<1本釣カツオ>	12,841	393 円		10,493	365 円	122%	108%
<巻網カツオ>	27,951	283 円		29,812	223 円	94%	127%
<カツオ合計>	40,792	318 円		40,305	260 円	101%	122%

百味窓

睡眠

睡眠時間は人それぞれであり、日中に強い眠気で困らなければ充分とされています。睡眠不足が続くと、がん、糖尿病や高血圧などの生活習慣病、うつ病などの精神疾患、認知症など、さまざまな疾病の発症リスクが高まります。

かつて「理想的な睡眠時間は8時間」と言われていましたが、明確な学問的根拠はありません。単に睡眠時間が長ければ良いというわけでもない。

同じ人でも睡眠時間は季節や年齢によって変動するため、睡眠時間の長短に過度にこだわる必要はありません。

まず重要なのは、自分に必要な睡眠時間を確保することです。日中に眠気が強い、休日に朝遅くまで寝てしまうといった場合は、普段の睡眠が不足しているサインになります。

体内リズムを整えるためには、毎朝同じ時間に太陽の光を浴びる、朝食をしっかりとる、夜に強い光を浴びないといった生活習慣が大切です。

近年では、睡眠の「長さ」だけでなく、睡眠の質（熟睡できているか）が免疫機能と関わるのが注目されています。熟睡時間帯は対象臓器の疲労回復が異なるとされますが、一般的には夜11時頃までに入眠し、深い睡眠に入ることが望ましいと考えられています。